

会 議 等 出 席 連 絡 票

報告日：令和7年3月18日

報告者氏名	須釜 初恵
会議等名称	令和6年度 第2回 いわき市地域包括ケア推進会議
会議等主催	いわき市
会議等日時	令和7年3月17日（月） 18：30～20：20
会議等 開催場所	いわき市総合保健福祉センター 多目的ホール
内 容	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 会長挨拶3 議事<ul style="list-style-type: none">(1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて(2) 中地域ケア会議の取り組みについて(3) 福祉介護人材確保に向けた検討部会の取り組みについて4 その他5 閉会 <ol style="list-style-type: none">(1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて<ul style="list-style-type: none">・認知症サポーターの活動促進・スローショッピングを毎月開催（平地区）・エンディングノートの普及啓発・入居、入所、葬送支援事業・“ふち” いごくミーティング 2024・つどいの場・住民支え合い活動づくり事業 地域まるごと支え合い・さきがけ！男の料理塾・介護予防ケアマネジメント支援会議・地域リハビリテーション活動支援事業・いわき医療圏退院調整ルール

- ・在宅医療推進のための多職種研修会
- ・ACP（人生会議）普及啓発
- ・認知症初期集中支援チーム
- ・地域共生社会まちづくり事業

（委員意見）

・地域リハビリテーション活動支援事業について介護予防ケアマネジメント支援会議を開催する中で支援会議は個別アプローチとなり同じ課題が多くみられた。リハビリテーション活動支援事業は事業所に対するアプローチ。リハビリ専門職がアセスメントを行いアプローチを支援する。

・地域まるごと支え合いについて社会福祉協議会が主となり取り組む事業。勿来地区において区長が中心となり、研修会を開催。複数の自治会より相談がきている。今後住民支え合いに興味を持って頂く。

・入居、入所、葬送支援事業について今後後期高齢者、一人暮らし、身寄りのない方が増えてくる。ケアマネや包括支援センターより相談を頂き事業が開始となった。現在は入居相談多いが、将来的な不安が大きく、医療同意や亡くなった後のことに対する相談ができる体制づくりが課題。

・認知症初期集中支援事業について、発足時より相談件数は減少傾向にある。認知症に対し早期発見と対応ができるようになったからではないか。認知症予防、認知症発症後のサポートなど様々な支援が増えている。治療薬も新しいものが開発されたが対象者は限られている。認知症の対応についてスキルアップを目指す。

（2） 中地域ケア会議の取り組みについて

【平地区】

・本市において人口が最も多い地区。地域住民の結びつき低下、外出困難な高齢者の増加が課題。R6年度は民生委員の協力を得てアンケート実施、R7年度はアンケート結果を分析、小地域レベルで具体的な取り組み等を踏まえながら事業の横展開や深化を促す方法を模索。

【小名浜地区】

・湘南台は高齢者世帯、一人暮らし世帯が増加、ゴミ出しが課題となっている。資源循環推進課同行で地域を視察、モデル事業を実施する。R7年度はゴミ出しサポート事業の改題を整理、事業対象地区の拡大を目指す。

【勿来・田人地区】

・地域における住民活動の担い手不足が課題。健康長寿を維持するフレイル予防の取り組み、特につどいの場、男性参加を促す取り組み。R7年度は地域活動の活性化、フレイル予防の充実、多層的な協力体制の促進。

【常磐・遠野地区】

・要介護認定者数の増加、地域内で集まる場の減少、買い物難民の課題。常磐地区買い物お手伝い号の実施、登録された利用者に週2日程度店舗まで送迎する（福祉車両の空き時間活用）R7年度はいきいき健康塾の開催について、2か所（遠野地区 入遠野地区）で開催予定。お買い物お手伝い号の継続、地域共生社会をテーマとした地域イベントの開催検討中。

【内郷・好間・三和】

・介護予防の推進や意識醸成が課題。R7年度は住民、関係機関の協働による生活支援の仕組みづくり、スーパーを拠点とした買い物支援、イートインスペースでの交流サロンの運営。

【四倉・久之浜地区】

・地域の担い手が高齢化、後継者となる人材の育成、確保が急務。認知症の理解不足、公共交通機関の空白地帯が拡大し高齢者の移動手段が乏しいことが課題。R7年度は高齢者の生きがいつくりと介護予防を目的とした「うしお大学×よつくら塾」の開催。認知症ケアパス策定会議の開催、ミーティングセンター「寄るべ」の定期開催、小中学生向け認知症教室の開催、ボランティア育成講座の開催、スローショッピングの実施に向けた検討、交通手段や買い物手段の確保に向けた各種取り組みの情報提供。

【小川・川前地区】

・中山間地域であり高齢化の急速な進行、若年層の地域外流出、独居高齢者や高齢世帯のみの増加が課題。R7年度取り組み、小川寺子屋の見直し、孤立防止のために地域でできる取り組みについて継続して検討する。

（委員意見）

・地域包括ケア推進会議を開催し10年が経過、今後の在り方について検討が必要ではないか。中地域であげられている課題はいわき市全体の課題であり、特定の地域だけでなく市として考える事が必要。
・小名浜地区で取り組んでいるゴミ出し支援について、地域拡大を図り、仕組みを作っていく事が必要。高齢者ばかりでなく子育て世代の

ゴミ出しも課題ではないか。

・ボランティア活動が縮小している印象あり、ボランティア活動の活性化を図る。定年退職後、ボランティア登録し活動することで役割を持って生き生きと生活できるのではないか。仕組みができれば地域で安心して暮らすことができる。

・外出支援について、協力したいが事故に対する不安が大きいとの意見あり。今後自動車テクノロジーを活用し最先端の安全装置の元、外出支援ができればよいのではないか？いわき市は日産工場がある為、協力をお願いできないか？

(3) 福祉介護人材確保に向けた検討部会について

・福祉介護人材確保に向けた検討部会を2回開催。

(委員意見)

・新型コロナの影響もあり、医療や介護従事者の人材は減少。行政として取り組んでほしい。

・人材確保を目指す場合の目標を明確にしてほしい。増加を目指すのか、維持を目指すのか。

・いわき市内は2つの福祉学科を持つ大学がある。ワーキンググループを開催し、当事者の声（学生）を聞く機会を持ってはどうか。

・育成をしても都会に人材が流出してしまう。育てた人材を地域に残って貰う為の取り組みが必要ではないか。

・学生の傾向として、リクナビの掲載、求人サイト、企業ホームページで就職活動をする時代。大手企業に学生は就職している。

・地域包括ケアは医療と介護の体制づくり。

(4) その他

・令和7年度保健福祉部の組織について再編ある。

地域共生社会推進係、生活支援係、地域支援係、介護予防係、高齢福祉係、介護サービス整備係、介護保険係が新たに創設。